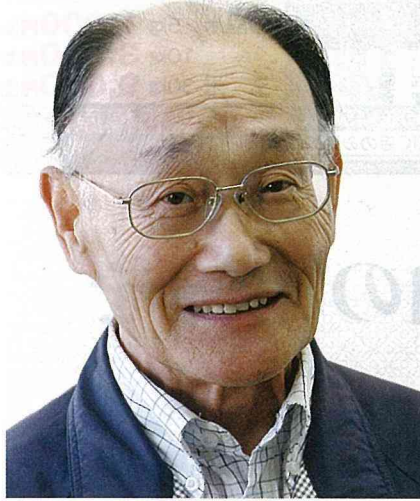


里山の自然、後世につなぐ

○市北部に位置し、県動を続ける団体の事務局と市が環境保全の促進を進め、発足から13年間走り続けている小松・城北地区。「後世に誇れる里山づくり」を生物生息環境の整備、近隣協賛が行う、畑仕事に目標し、その景観を守る活の広田小学校児童の自然体

人物風土記

題字は
相模原市長



●「小松・城北」里山をまもる会の事務局として奔走する

熊谷 達男さん

広田在住 75歳

るやまふれあい農園」にもに招き、保養キャンプを継続している市民団体「母ちい」と意気込む。一方、悩やんず」を、同郷の縁からみのは「担い手不足」。後相談役として支援している。また現在、城山地区社協の継者探しが目下の課題。

○出身は福島県の東和町（現・二本松市）。自然に囲まれた原風景を、保全する里山の姿に重なる。「活動を続けてこられた原動力になつているのかな」としみじみと郷里を追想する。中動は枚挙に暇がない。

○月2回ほど、仲間と学卒業後、集団就職で上京。好きな歌を歌うサークルに当初は好きな鉄道関係の仕事をして望んでいたが、縁あってNECに入社。約40年間、製造や営業業務に従事し、富山や茨城など地方の工場立ち上げにも携わった。年間後、「何の縁か、故郷と同じ地名」の緑区二本松で、知人の鶏肉専門店を引き継ぎ、もうじき20年になる。

○東日本大震災で被災した福島県の親子を市内外

な家庭を支えに走り続ける。